

スペーシャル・プランニング研究

研究代表者 後藤 春彦
(創造理工学部 建築学科 教授)

1. 研究課題

近年では都市計画の英訳として、City Planning や Town Planningではなく、Spatial Planningを用いられる様になってきた。スペーシャル・プランニングとは、直訳すれば空間計画となるが、ここで空間という単語をつかう理由をふたつあげることができる。ひとつは、都市のみならず非都市部もあわせて計画の対象とすることを意図していること。もうひとつは、物理的な空間のみならず社会的な空間もあわせて計画の対象とすることを意図していること。まさに、計画の対象と概念が、空間のネットワークや人間のネットワークへと拡大していることを前提として、本研究では、新しい計画概念と計画システムの構築をこころみる。

2. 主な研究成果

これまでの都市計画は、個別の都市の成長と産業化を前提とするものであった。計画システムは福祉国家としての重要な政策のひとつに位置づけられ、法的根拠を有した土地利用の規制や制御とプロジェクトを組み合わせることにより、機能の不足の解消をめざす方法がとられた。しかしながら、人口減少時代の都市計画は、都市の縮減を前提に地球環境に親和的な脱産業化をめざすものである。漸進的な縮減を計画的に管理しながら、あらたに出現する空隙にまちづくりの種子を埋め込みながら固有の文化や環境の継承をめざすような戦略が求められていることを確認した。

これは都市の拡大成長を目標に物理的空間へ機能の適正配置を行ってきた計画から、社会関係によって出現する社会的空間の質をより向上させる計画への変化とも理解できる。すなわち、整然とした計画の厳格な立案から、シームレスな環境像や空間像の大きな枠組みを提示することへプランニングのあり方も変化している実態を把握した。

その中でも、都市・農村連携と市民自治は、空間のネットワーク、人間のネットワークとも読み替える事が可能で、スペーシャル・プランニングの極めて重要なパラダイムに位置づけることにより、概念整理をこころみた。先に示した様に、前者は、都市のみならず非都市部もあわせて計画の対象とすることであり、後者は、物理的な空間のみならず社会的な空間もあわせて計画の対象とすることであると理解された。

前者は、都市・農村計画と呼ぶ方がイメージしやすいかもしれない。わが国では、都市部は都市計画法によって、非都市部は農地法・農振法・森林法等によって、それぞれ別個の法体系でコントロールされている。都市が急速に拡大した時代には、都市化の制御と優良農地や自然環境の保全への適切な対応が求められる時代であったが、都市が縮退をはじめた人口減少社会において都市と農村を区分するのではなく、あわせて一体的な計画対象とすることは理にかなっている。また、地方分権の視点に立てば、都市計画に関して分権がすすんだのに対して、農地に関してはそれほどでもない。研究代表者の参加する地方分権改革有識者会議では土地利用に関する各種法体系を総合的に運営する観点

から、法体系の一元化と住民に身近な市町村が権限と責任を担うことの必要性について議論をはじめた。

一方、後者に含まれる社会的空間とは、歴史・文化、社会・経済、そして自然環境を背景とした人間と人間の関係性によって生まれるものであり、東日本大震災以降は「絆」とか「つながり」といった表現が多用されるようになってきた。近年では、こうした社会的空間への計画的関与はコミュニティ・デザインとも表現され、地元の多様な主体のパートナーシップの構築や強化がはかられていることが確認できた。

3. 共同研究者

山村崇（理工学術院 助教）

4. 研究業績

4.1 学術論文

山村崇、後藤春彦「東京大都市圏における知識産業事業所の広域的移転流動パターンとその発生メカニズムに関する研究」日本建築学会計画系論文報告集 第703号 pp. 1913-1922 2014.9

森田椋也、後藤春彦、山崎義人、野田満「再祀後の神社の運営に関する基礎的研究」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 1059-1064 2014.11

浜田麻里奈、後藤春彦、山村崇「テーマ型カフェを媒介とする地域活動ネットワークの展開に関する研究」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 783-788 2014.11

遠藤瞭太、後藤春彦、山村崇「大学生の学習場所としてのサードプレイスに関する研究」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 1083-1088 2014.11

池尾恵里、後藤春彦、佐藤宏亮「介助を必要とする高齢者の外出行動の実態と外出支援の課題 - 外出支援を行うデイサービスセンターに着目して - 」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 825-830 2014.11

齊藤千紗、後藤春彦、佐藤宏亮「横浜市郊外の交通脆弱地域に立地する公団団地における若年層の流入と定着要因」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 807-812 2014.11

田中康雅、後藤春彦、山村崇「民間事業者によるひとり親家庭を対象としたシェアハウスの運営実態と社会的役割 - 神奈川県川崎市高津区ペアレンティングホーム高津を対象として - 」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 975-980 2014.11

加藤瞭、後藤春彦、馬場健誠「繁華街におけるデジタルサイネージの掲出実態」日本都市計画学会学術研究論文集 No. 48-3 pp. 817-822 2014.11

野田満、後藤春彦、山崎義人「人的支援の効果的活用に向けたコーディネート組織の役割」日本建築学会計画系論文報告集 第705号 pp. 2423-2432 2014.11

馬場健誠、後藤春彦「米国におけるビッグデータを活用したシビック・テクノロジーの実態と課題」日本建築学会計画系論文報告集 第706号 pp. 2711-2719 2014.12

後藤春彦ほか「人口減少社会とコミュニティ」コミュニティ（地域社会研究所）No. 153 pp. 9-65 2014.11

4.2 総説・著書

後藤春彦「計画的圏域シティリージョン」自治日報 一面コラム 2014.7.4.

後藤春彦「スペーシャル・プランニングへの期待」自治日報 一面コラム 2014. 11. 28

後藤春彦ほか「東日本大震災合同調査報告 都市計画編 (第6章)」丸善 2014. 12

4.3 招待講演

講演「市民がまちの経営に参画する時代を拓く」全国地域リーダー塾 地域活性化センター 大手町サンスカイルーム 2014. 5. 16

講演「まちづくり最前線」早稲田大学地域交流フォーラム ホテル沼津キャッスル 2014. 5. 17

講演「自治と空間 城崎から考える」U30 都市計画- 都市設計提案競技 東京大学本郷キャンパス 工学部1号館15号講義室 2014. 7. 26

PD 「人口減少時代の集約型都市づくり」自治体学会富山高岡大会 ウイングウイング高岡 (+宮口侗廸、京田憲明、木谷弘司) 2014. 8. 22

講演「地域資源から地域資本へ」リーダー塾修了者研修 アルカディア市ヶ谷 (+上原佑貴) 2014. 8. 28

講演「地域の再生とデザイン」全国地域リーダー塾 地域活性化センター 大手町サンスカイルーム 2014. 10. 01

講演「まちづくり、都市計画、Spatial Design を巡って」明日の扉の講演会 早稲田佐賀中学校 高等学校 2014. 11. 21

基調講演+PD 新宿景観シンポジウム「多様性を活かす新宿景観まちづくり 新しい景観要素としてのひとびとの流動」(新宿区+美しい東京をつくる都民の会) 四谷区民ホール (+進士五十八、野澤康、宮沢功、岸ユキ) 2014. 12. 18

講演「景観と自治」福井県まちづくりセミナー2104 (福井県都市計画協会、福井県) 福井県国際交流会館多目的ホール 2014. 12. 19

講演 “Medicine-Based Town Planning” International Cooperation in Urban Development and Urban Regeneration Conference, Converging Technology Center, Korea University 2015. 1. 17

講演「都市の個性の読みとり方 景観まちなみを活かしたまちづくり」市町村アカデミー 市町村アカデミー教室 2015. 1. 27

講演「建築と都市デザイン」早稲田大学芸術学校 シルマンホール 1F 2015. 1. 27

講演「定住自立圏とシティ・リージョン」本庄地域定住圏研修会 本庄市役所大会議室 2015. 2. 06

講演「住民自治と景観まちづくり」にし阿波協働センター研修会 徳島県つるぎ町農業構造改善センター大会議室 2015. 2. 10

4.4 受賞・表彰

山村崇 日本建築学会奨励賞

4.5 学会および社会的活動

内閣府地方分権改革有識者会議・議員

内閣府地方分権改革有識者会議・地域交通部会・部会長

内閣府地域活性化プラットフォームワーキングチーム・主査

総務省地域力創造アドバイザー

東京都景観審議会・委員

富山県まちの未来創造会議・座長

世田谷区都市整備方針改定検討部会・委員
豊島区アメニティ形成審議会・会長代理
豊島区アメニティ形成審議会・景観計画策定部会・部会長
新宿区屋外広告物に関するガイドライン等検討委員会・委員・委員長
新宿歌舞伎町・屋外広告物を使ったエリアマネジメント広告表示自主審査委員会・委員長
宮城県加美町美しいまちなみづくり検討委員会・委員・委員長
宮城県加美町宮崎地区商店街活性化検討委員会・委員・委員長
(公) 日本都市計画学会 オリンピック時における近距離輸送交通検討委員会・委員
(社) 地域環境資源センター技術検討委員会・委員
(社) 東京バス協会広告付きバス停留所第三者評価委員会・委員長
全国地域リーダー養成塾(財団法人地域活性化センター) ・主任講師
風景づくり夏の学校 U30 都市設計競技 2014・審査委員
Member, the World Society for Ekistics
台湾・徳霖技術学院不動産学群国際名誉講座教授
日本建築学会農村計画本委員会・委員
日本生活学会・理事
早稲田大学・参与

5. 研究活動の課題と展望

スペーシャル・プランニングとは従来の土地を区画し機能を割り当てる土地利用型ではなく、社会関係性にもとづき物理的空間と社会的空間をシームレスに統合していくアプローチをとるものであり、周辺領域もふくめた多主体間の関係に依拠するものである。そして、そのめざすべき目標は生活の質の向上であり、良質な物理的空間のみならず、連結性・連続性、社会的機会の公平性・公開性、持続可能性などを含む広い概念としての社会的空間の質の向上である。

今後の研究の展望として、都市農村計画法(仮称)の制定に向けて、ひろくロビー活動を展開したい。